

会派代表

報 告 書

令和 元 年 10 月 28 日

泉大津市議会議長 様

No. 1

(会派名)

出張者氏名

あづ
賀野孝治郎



下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

1. 日 時 令和 元 年 10 月 15 日 (火) ~ 10 月 16 日 (水)

2. 出張先 ○ 埼玉県 飯能市 東京都豊島区 南池袋公園
東京都 相模市

3. 目的 ○ 埼玉都中委員会 行政視察
1. 飯能市 魅力ある都市回廊空間づくりの取り組みについて
2. 相模市 さまざまな場におけるコミュニティの導入
(現地視察も含む)

4. 報告事項

3. 南池袋公園 運営理念が「サドボレイ」で、その上で、夏広場や多目的広場等、現地へおもしろい感性で、公園のあり様と体験の事。
○ 所感 2-2 型 2-別故 2-報告。

- ① 222xマップのふたごめんのマップはフィンテックの「裁」の意を2角。大きく2つのエリアで成り立っている。
- マッププロジェクト(MV)…… 北歐のライフスタイルを体験できるエリア (入場無料)
- ムービーパーク(MVP)…… ムービー物語と過体験できるエリア (有料施設 @500-1園料)
- ※ ムービーパークはベースに施設がある。

	構築(資本金)	運営	施設概要	車の支出
MV	フィンテック社	ムービー物語社 (運営委託)	北歐のライフスタイルを体験できるエリア ・無料の無料を利用できる公園的機能。様々バリエーション	総費用 1億5千万円
MVP	効能地産資源利用 合同会社(地産SPC)	ムービー物語社 (賃貸者)	ムービー物語と過体験 → マップ。風景。イベント	出資金(CSPC) 5千万円

② マップの誘致と連携 誘致経緯

- 平成27年11月 フィンテックから「裁」ムービー物語社と設立/日本園地ムービーを主題としたテーマパークを建設する計画と発表。日本園地に於けるテーマパーク建設と候神地の誘致活動がスタート。当然無効な市の候補地への活動を開始する。
- 誘致活動の経緯(1) ~~北歐系園地~~ / トピカルな子供向けの公園(平成9年7月開園の市公園)と併存すると、その良さは強烈な印象に思われる。北歐系童話「ムービー物語」の原洋者からトピカルな子供向けの公園担当者へ「様々な園地が溢れる園地になるムービーの世界感」とを4.7.16公園の企画書に記述。平成4年秋にその旨を伝えた「この中から選んでください!」とトピカルな園地、早くに選んで頂く。その美しさ(年間(開園後の平成11年まで) ~~新設~~ 新設の取組に意を交流。早くに原洋者との確かな構築される。
- (2) 豊か自然環境を有するムービー谷を再現するの工夫をこらした。(3) 地盤が最長40分(歩行時間)とアセスメント済みのこと。
- 平成27年6月30日 効能中にマップ開設決定(発表) 地方創生に関する基本協定締結
- 市とフィンテック社が「マップの建設」「観光振興」「市の地方創生に資する事業」に連携協力

・ムニシパの活用。副市長がムニシパの77社(71社)を訪問「ムニシパの活用」
と「ふるさと創生 通利院への活用」「ムニシパの活用」を話し合ってきた。

・今年10月と昔と比べて22で補正と連続する。○ムニシパの達成が非常に早い理由は何か? 老舗の
かたがた、70が71社以外に日本2初めで学園IFという。また、ムニシパの取組と、
大きな成功の。又、東園着の声として「物語と具象化」に力を入れている。ムニシパの
よくいっている「ムニシパの活用」が、当然、70-71と比べている。○ムニシパ
の取組と、71社以外に、結果、台湾各地のムニシパの活用。
○施設活動の活用? 限られた職員の中で、非公開の事業を始める。○都市回廊整備の
構築はどうか? 先に明記した観光振興と整備。観光地としての魅力を高め、交流人口を増加させる。

○最後のムニシパへの市の支援効果について

△支援について ● 宮沢湖(農業用池)を行政財産使申請許可とす。使甲料についてはMVAの
は、建物敷地(収益施設)部分を徴収。MVPは市の徴収。● 光沢として明記したMVA滞り費用
負担金(1億5千万) MVP(SPO)出資金(5千万)。● MV入口部分市道整備費(一部負担)。
● 周辺川下道路の整備。● 周辺環境整備(水路等)。● 行政指導等指導助言

△効果について ● ムニシパの活用 / ふるさと創生 通利院の乗付金額の増加 H28年度は46億
99万4千円。H28年度(H29年度現在) ~~2164~~ 2164億、1億610万849円と5741億に増える。平成
30年度の中心水源は、この数字である。(正数数字保) ● 地元共同企業体(8社JV)への建
設工事発注(2767億円) / 協力事業者と市の市内60社を参考。建設工事の地元木材(西川材)
の使用。● MVテナントの地元事業者へ、地元産品取扱の連携(ムニシパ以外) -
● 市民の優先度(障害者雇用) ● 市民優待 ● ムニシパへの露出(TV、雑誌、~~市の~~ 地伊媒体)
● 税、行政財産使甲料、水道料金の増収。

○ 公共の事前質問について (説明の流れと対応と、~~結果~~ 結果)の答

● 木沢川ハットについて / 木沢川、築港会社、地元金融機関等。地元、首領等との
企業と協力的な交渉。ムニシパの活用と、相互の周知も必要。
● 湖と学園の活用、平成30年度の西武池袋線と、通利院と、新設特急車両「ラビ」
又、~~また~~ ムニシパの世界や、地産の活用と、体験も必要。また、ムニシパの最善策である

お池袋への心配

系列外に於て、各地の莫大の発着は、~~事業~~ (契約の更新に於て建設契約の進展と100%)

- 未だ事業のあり、市民の声は、応募企業は？ 又此の公共施設に於て、今後未だ7711と

~~並~~ 通ぬていふ事、^{100%} / 賛成反対両方の意見あり。(此)又此以外に他に在り、
 計6社の応募である。又此の2社は選ぬていふ事、現況に於て、施設選定に苦勞を以て
 込め、段階に於て、該等施設あり。

○ 選定

- 応募企業が2社に、施設に於て、競争の心、不平等、事業の大きき若し、此の事、
- 新向の契約金額、65万+110万、~~設置維持管理費~~ 維持管理料、と此の力、
 当初の市の規程は、下限と、100万と、此の事、この応募水準の業者が、50万、防衛に、
 上程水準に、此の市の、競合に、此の事、同様に、不平等、自身は、5元子。(当時の規程に、)

● 収支概算

当公園の、対して維持管理費が、年間、197万と、此の事、と、此の対して、~~維持管理費~~ ^{契約料} 65万+110万と、
~~設置料~~ 50万と、^{100%} 200万と、此の事、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、
 此の対象物中の維持管理費が、この契約金額の中、あると、此の事、^{100%} 100万と、
 この対象物中の設置料は、環境と、此の事、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、
 この対象物中の設置料は、環境と、此の事、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、

● 今後

- 担当部局の、思は、~~事業~~ 100万と、此の事、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、
 通達に於ては、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、
 広場の存在と、此の事、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、
 人工費が、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、
 駅前広場より、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、

② 東京都豊後区 南池袋公園

○ 池袋駅南口徒歩5分の距離に、~~事業~~ 100万と、此の事、^{100%} 100万と、
 合計8分の財源と、此の事、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、
 主要広場と、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、
 此の事、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、此の事、^{100%} 100万と、

○ 1. 公園の概要 (面積) 約 7800m² (名称) 南池袋公園 (交通) 池袋駅有楽町線徒歩5分
 (理念) 経営理念は「サトウパルク」/ 現在の都市社会に於ける住居 (7800m²) × 職場・学校 (2000m²) に次ぐ居心地の良い第三の場所を指す (概要) 元は昭和60年区画整理事業で出来た公園で、昭和60年地下鉄有楽町線の工事に伴い再整備。30代平成28年着工公園全体がサトウパルク。

2. 公園の課題 (1) 無料施設 年間時間 8時~22時 定間は出入口の門扉と施設費
 ① 芝生広場 夏と冬との入替りに伴う養生期間以外は原則として常時開放 / 訪客時木の20期間に当り広場の入場場所が制限される。② 多目的広場 カラオケの踊り場 / 豊島区がNTT東日本と提携して提供するエリア WiFi 「TOSH.I Free Wi-Fi」が利用可能 ③ サラテラス 豊島区発祥のソムリエの下に広がるテラス ④ キッズテラス 土曜日の滑り降りる大きなボール台とほのめし / ヤ区職遊具場とつながるエリア ⑤ 店舗等施設 飲食店への施設は管理室、トイレの池に備蓄倉庫があり災害時等に非常困難者対策と担う機能を持つ。
 ⑥ カラオケのテラスが営業している。この店に飲食と担う。 / 租 8:00~22:00 土日祭 9:00~22:00 花相= /
 ⑦ 管理施設 (2) 2. 明証(派遣)

○ この池 (1) 利用客数 ⇒ 租 1,000人/日 休日 2,000人/日 カラオケ利用者は3割の割合

(2) 収支状況 ⇒ 地下部分の固定収入 1800万円/年 (土地賃料) 600万の収益は毎年度繰上り
 ● 収入 約 3040万円/年 内訳 地上(カラ) 約1240万円 地下 東京電力 1500万円/年 軒小1000万円/年
 支出 約 2400万円/年 清掃地数管理委託費 1800万円 警備委託 600万円

● 積立基金が公園整備費申請申請できるからうやまひ。豊島区の財政負担が単年度では無い。理想的(2) 公園のスタッフ27人の不足問題の件 (積立基金活用)

(3) 管理 草刈は2回年に1回実施、キッズエリアのメンテナンスは消耗が激しく頻繁に補充が必要。庭園閉鎖時には3歩道の破損率は少ない。

○ 過剰 ~~管理費~~ 減費案と減費案とを比べ都市公園の施策として成功に思ふ。経済重視とサトウパルクの2.600の1000は利用客の面では、公共の視座での分析が必要と考へておられる。
 ↓ 立地・着方面 又収支状況

以上

飯能市 行政視察 所見

中村与志子

『魅力ある都市回廊空間づくりのための ブラッシュアッププロジェクトについて』

西武鉄道が管理していた遊園地跡地の宮沢湖周辺に、賑わいの創設を起爆剤にした人口減少対策として、有料施設のムーミンバレーパークの誘致と入場無料の北欧ライフスタイルを再現したショップ、レストラン、工房などをふるさと納税を財源に整備されておりました。ムーミンという世代をこえ、知名度の高い、世界的人気キャラクターの活用が、市の賑わいを創設するには、大変有効であると感じると同時に、ライセンス契約の規制《アニメの世界観を壊さないために作者の意向が重視されるため、外国との文化なども含め信頼関係の構築が必要とのことでした。》をどのように克服し、ムーミンを街中に展開していくかは、今後の大きな課題としりました。また、この日は、埼玉県内は前日の台風の影響で、死者や床上浸水など被害の出ていた都市があり、さらに、平日の夕方雨の中、現地を確認しましたが、多くの40代ぐらいと思われる女性や親子連れが、ムーミンバレーパークの買い物袋を持っており、観光名所として賑わいがあること

が確認できました。本市に置き換えた場合は、本市財源確保につながるかをしっかり議論した上で、世代を超え知名度の高い国民的アニメを活用した賑わいの創設を進めていくことは、大きな財源を投じてでも大変有効と考えます。

狛江市 所見

『駅前広場に係るネーミングライツスポンサー 及び相性の決定について』

ネーミングライツにおいては、駅前であり、当初、契約金を100万円程を予想していたが、応募がなく、50万円まで下げ、それでも応募がなく、地元企業に職員が周知も含めた営業に回り、応募2件を獲得し、年間65万円の3年契約を締結したということでした。公園運営費197万円で65万円の契約金と災害対応自販機設置費用10万円、イベント開催1日1万円が歳入に入るということで、公園運営の費用の一部が歳入確保できたことで節減できた実績は大きいと考えます。

本市に置き換えた場合は、今後新設される公園や公共施設にネーミングライツの公募を行い、応募がなくてもいいというぐらいの覚悟で、たとえ数万円でも歳

入確保に繋がるなら、ネーミングライツを進める価値があると考え、検討していただきたくないと要望していきたくと思います。

南池袋公園も見学しました。

平日の昼間でも、3、4歳ほどまでの子を連れた親子の姿があり近隣住人の憩いの場になっていると推察しました。また、男女サラリーマンの姿があり、お洒落なカフェは、13時を回っていてもランチをとる人で溢れ、オフィス街の立地でもあり賑わいがあると確認できた。

民間企業の利益が上がり、天王寺てんしば公園のように、公園運営指定管理料が必要なくなるような公園運営には、立地条件が大きく影響することから、お洒落で高額なランチカフェが泉大津市の公園で実現できるかは、相当な調査が必要と思いました。市民がそこにあるから立ち寄る公園、近隣市住民もがその公園に行きたいと足を運ぶ公園、遠方や外国人旅行者が旅行で来てまで訪れたい公園、どれを目指すのか。この3てんを明確に決定し、本市がこれから整備する公園は、何れにしても自主財源を確保できる公園整備を行っていただきたいと考えます。

総務都市委員会行政視察 所感

池辺貢三

・埼玉県飯能市

「魅力ある都市回廊空間づくりのためのブラッシュアッププロジェクト及びメッツァビレッジについて」

平成 3 年当時に建設省が打ち出した方針の「平成記念子どもの森事業（緑豊かな自然の中で子どもたちがのびのびと遊べるための工夫を凝らす）」を受けて、当時の公園担当者が「様々な個性が溶け合い、調和しているムーミンの世界観をモチーフにした公園づくり」を計画し、原作者であるトーベ・ヤンソン氏にその旨を手紙で伝えたところ（平成 4 年当時）、「信じられないくらいにわくわくしています」と、トーベ・ヤンソン氏よりすぐに返事が届いたとの事。その当時より実に 7 年間もの期間、手紙のやり取りを通して交流した事と、平成 26 年、日本創生会議人口問題検討分科会の試算で、消滅可能性都市として飯能市も位置付けられたことを背景に、都心から近いにもかかわらず、緑豊かな立地性などにより、フィンテックグローバル（株）の誘致に成功し、ムーミンバレーパークの開園につながったものであると感じました。

その地方創生総合戦略の考え方のベースに、「民間の繁栄なくして市の繁栄なし」として、民間資本の誘導による地域経済の循環・活性化、民間事業による賑わい創出に取り組まれたとの事。

その効果として地元共同企業体（3 社 JV）への建設工事発注（約 57 億円）、さらに協力事業者含め市内 60 社の参画や、市民 200 人を超える優先雇用など、地域活性化の成果に大きく寄与していることが確認できました。

また、インバウンド対策事業や商店街のにぎわい創出事業などに取り組まれ、今後の展開がすごく興味深いところでした。

本市においては 75%の山間地域を持つ飯能市と地域資源の違いがあるものの、自転車でもこへでも移動のできる平坦な立地と海を有する地域資源を活用して、市民会館跡地の有効活用や、まちづくりにつなげていく事が重要であると感じました。

・東京都狛江市

「駅前広場におけるネーミングライツの導入」について

新たな財源確保を図るため平成 30 年度の開設を迎えるえきまえ広場に係るネーミングライツのスポンサーについて募集を行ったとの事でした。

ただ、このえきまえ広場にかかる維持管理費は約 187 万円／年かかっている、契約金額 65 万円／年との事でしたので、今後の事業展開に注視していく必要があると考えますが、契約事業者の事業内容がイルミネーションのイベント企画等に携わる事業者という事から、全額スポンサー持ちで実施している夜間のイルミネーション事業など、様々な意見はあるも

のの、市民からの評価を得ているとの事。

本市とほぼ同規模である狛江市において、財源確保にさまざまな取り組みが行われていることに対し本市も見習うべき点が多いにありましたが、ネーミングライツの導入だけでなく、駅前広場における災害時の活用や、今後の活用に対する展開など様々な意見交換により、今後竣工予定である南海本線駅高架下広場においても、様々な活用を含めて市民にとって愛着の持てる駅高架下広場になるように提言していきたい。

・南池袋公園

現地視察に伺った南池袋公園については、面積約 7,800 平方メートルのなかで芝生広場や多目的広場、サクラテラスやウッドチップを敷き詰めたキッズテラスなど、平日にもかかわらず多くの人で賑わいを見せていました。

また、災害時には備蓄倉庫や帰宅困難者対策を担う施設となっており、素晴らしい公園整備であると感じました。

また、歳入と歳出については清掃や植栽の管理委託に約 1,800 万円／年と警備委託に 600 万円／年で計 2,400 万円の維持管理コストがかかっているが、歳入ではカフェや東京電力、東京メトロから約 3,040 万円の収入があるとの事でした。

本市においても市民会館跡地の整備に向けて、このような公園整備にしていくべきであると感じた現地視察でありました。

令和元年 10 月 15 日～16 日に行われました総務都市常任委員会行政視察の所感を下記の通りご報告致します。

公明党 大塚 英一

記

令和元年 10 月 15 日、16 日 2 日間の総務都市常任委員会行政視察の所感をご報告します。まず初日の 15 日は埼玉県飯能市へ行かせていただき、魅力あると史回廊づくりのためのブラッシュアッププロジェクトについて学ばせて頂きました。飯能市のこれまでの一連の取り組みの発露になっていたのが、日本創成会議人口問題検討分科会の試算で「消滅可能性都市」に位置付けられたことで、飯能市ならではの地方創成の戦略を立てそれを実行していかなければならない強い危機感から生まれたものでした。そして飯能市版地方創成の考え方のベースとなっているのが「民間の繁栄なくして市の繁栄なし」というもので、民間資本の誘導による地域経済の循環・活性化・民間事業による賑わいを創出するというものでした。そこで飯能市では地域のもっている特性、そしてこれまでの取り組みで実在している施設「トーベ・ヤンソンあけぼの森公園」を活かしたメツァビレッジ（北欧のライフスタイルを体験できるエリア）とムーミンバレーパークの構想を立て、この一連の事業スキームを民間中心にして行い、その結果としてわずかな期間で 100 万人の来園者達成や、このメツァの賑わいにより市民の雇用が増えるなど様々な効果が上がっていると説明がありました。ともすれば地方自治体がこうした事業を行う際には第三セクターなどの形態を想起させ視察の質問時間の中でも他の委員からそうした質問がありましたが、飯能市では「民間の繁栄なくして市の繁栄なし」との基本コンセプトを重視し事業スキームを作られました。個人的には少し複雑なスキームであるなど感じましたが行政が携わる守備範囲を限定的にして、民間を中心に行っている点が大変参考になりました。またムーミンライセンスの活用によるグッズやタペストリーなどをはじめ様々な仕掛けにより更なる来園者の確保そして、メツァを基軸とした地域の様々な魅力を知っていただく取り組みを行っていると思いました。そして今後の更なる取り組みや課題については、来年のオリンピック・パラリンピックを控え外国人の観光者がますます増えていくことに対する対応が必要であるとありました。その中でも声を大にしておっしゃっていたのは早期のキャッシュレス対応の実現でした。やはり外国人観光者にとってこのキャッシュレスというのは外国人の方が訪問を決定する上で大変重要なファクターの一つであることが改めてよくわかりました。飯能市役所での説明が終わったあとはメツァビレッジ現地へ行かせていただき施設の見学をさせて頂きました。

想像よりも広大で本当に森林浴をしているような気持ちになりました。
またムーミンの世界観を大事にしたコンセプトは短期間で来園者 100 万人を突破したのも納得の施設でした。本市におきましては市民会館跡地活用の問題がありこうした飯能市の事業スキームも一つの手法として大変参考となるものでございました。

続いて 2 日目は東京都狛江市へ行きまして「えきまえ広場に係るネーミングライツスポンサーおよび愛称の決定について」学ばせていただきました。まずは冒頭に狛江市の概要等説明をいただきました。狛江市は都心に比較的近いという地勢から特に若年層の人口が増えている傾向にあるとお聞きし、少しくらやましく感じましたが、他方様々な課題を抱えているとも説明がありました。その中でも近隣に世田谷区が住民サービスの違いに対するお声があったり、子育て世代の人口増で保育施設などの充実が急がれているなどを含め、総じて市財政は大変きびしい状況下にあるとのことでした。そこで市の財源確保を図るため狛江駅前前のえきまえ広場に係るネーミングライツのスポンサーについて募集を行ったと説明がありました。説明の中では今回このような取り組みは狛江市では全く初めてのことで、手探りの状態で契約期間や契約金額の設定に苦慮したとありました。そうした試行錯誤の中で、今回地元企業がスポンサーになりその企業が電気工事業の企業でイルミネーションなどを手掛けていたことからえきまえ広場にイルミネーションを施すなど広場の賑わいに貢献していただいていると説明がありました。また実際に現場の広場を見学させていただき近隣の保育園児たちが楽しく走り回って遊んでいる姿を見て市民の方に愛されている公園として定着しているなど感じました。

質疑応答の中で私は何点か質問させていただいたのは、契約内容についてでした。市民の方に親しまれ、また定期的にイベントも開催しているえきまえ広場にしては契約金額が安いのではないかとお聞きしました。説明いただいた担当者の方もその認識はあるとのことでしたが、初めての取り組みで実際なかなか応募してくれる企業が少なかったとのことでした。そして今後の課題としてこのえきまえ広場の価値を高めていく魅力あるイベントの実施などで契約金額を上げていただけるような施策が必要であるとおっしゃっていました。そしてネーミングライツが決まった時から、次の契約の更新時のことを頭に入れておかねばならないことも力説されていました。つまり現スポンサーとの契約が終了しスポンサーが変わった場合にどういった影響がでるか考慮しなければならないとありました。以上の視察を通じてネーミングライツを実際に行う際は契約金額や契約期間、そして契約更新時にどうするのか慎重に考慮して行わなければならないことがよく分かり大変参考になりました。

狛江市のあとは南池袋公園を見学させていただきました。オフィス街が広がる地域の中でゆったりと緑の空間にたくさんの方が訪れてこの公園にはゆったりとした空気が漂い訪れた方がそれぞれにくつろいでいました。市民会館跡地の考え方の参考になる公園でした。

《所見》

(1) 10月15日（火） 埼玉県飯能市
魅力ある都市回廊空間づくりのためのブラッシュアッププロジェクトについて

飯能市の「地方創生への取組」は、2013年の日本創生会議による試算で「消滅可能性都市」のひとつに位置付けられたことが強烈なインパクトとなったことがまず報告された。「少子・高齢化」「人口減少」に歯止めをかけ、住民のニーズに応えながら街の将来像を描くことは、本市を含めてどこの自治体でも直面している課題ではあるが、極めてコンパクトな市域に人口が密集している本市と、広大な山間部を抱える飯能市では、前提条件が違いすぎ、参考にできるのか？実は当初、懐疑的でもあった。市役所での地方創生推進室の担当者による説明を受けたなかでも、その想いは残った。

しかし、ムーミンのテーマパーク、メッツァ（フィンランド語で「森」）を訪ね、そこで1時間余りの時間を過ごし、市役所での担当者の話を思い起こしながら、以下のような思いに至った。「まちづくり」の成否は「今、ここにあるものを、どう生かしていくのか」に知恵を絞り、市域全体を見渡す視野と、数十年後を見通す視野を持ち、「時間と空間」の軸をぶれずに定めることができるかどうかにかかっているのではないかと。

メッツァの山と湖、夕闇を暖かく照らす灯りは、はるかに遠い記憶の高校生のころに憧れた北欧の「ムーミンの世界」が目の前にあらわれたように美しい。しかし、その背景は日本のどこにでもある山村の風景でもある。山肌を削って道路を作り宅地を造成する「開発」ではなく、山を山のまま残して、人々の癒しの空間として蘇らせた。ムーミンライセンスの取得によるメッツァの整備によって、1991年4月、「ムーミンの世界観」をモチーフに整備されたという「トーベヤンソンあけぼの子ども森公園」、古くからの山間地域の観光資源とを結ぶ「都市回廊空間」の構築により、観光地としての魅力を高め、人の流れをつくった。

メッツァは入場無料のエリアと有料施設とがあり、ともに運営は(株)ムーミン物語社。市はムーミンキャラクターライセンスの活用によって爆発的に増えたふるさと納税寄付を原資とするムーミン基金を財源に会社に出資している。

メッツァの整備による経済波及効果についても報告された。地元建設業者への工事発注、地元木材の使用、市民優先の雇用の創出など。

このように聞くと、「ふるさと納税」による寄付を原資に民間企業に出資、その事業展開による経済効果も地元企業と市民に還元され、人口減少に歯止めがかかるほどの「市の魅力アップ」につながるという、まさに「いい事づくめ」であるが、事業展開のスキームについては限られた視察の中で十分に理解をすることはできなかった。市が補助金、委託料ではなく「出資金」という形で財源を投入した結果の検証がどのようにされるのか？今後の事業展開に市民のニーズがどう反映されるのか？その仕組みを知りたいと思う。

(2) 10月16日 東京都狛江市
えきまえ広場におけるネーミングライツの導入について

小田急狛江駅を降りると、すぐ目の前の「えきまえ広場」は中央がグリーン的人工芝。よちよち歩きの幼児とお母さんが安心して遊ぶ姿がみられ、やがて保育所の子ども達もやってきた。散歩のコースだと言う。休日には、団体に貸し出してイベントの広場にもなる。

駅前に、こうしたオープンスペースがある光景はあまり例がないように思う。「えきまえ広場」という名称も、その活用の仕方も市民参加で議論がされてきた経過があるとのことだった。

(株)メビウスが 年65万円でネーミングライツスポンサーとして契約、「メビウス∞えきまえ広場」という愛称が付与されるまでの担当者の苦勞も聞かせていただいた。「50万円まで下げても、なかなか企業の手があがらなかった」とのこと。市内事業者を訪問して、メビウスとの契約に至ったとのことである。

ネーミングライツの導入は、自治体にとっては公共施設の維持管理などに係る経費などに充てる財源の確保、企業にとっては社会貢献によるイメージアップ、PR効果でWIN-WINの効果が得られるものとして、導入自治体は増加傾向のようで、大阪府下周辺自治体にもその例を見る。

しかし狛江市での事例を聞く限り、自治体の規模が相当大きく、公共施設等の利用人数も多くなければ、企業にとってのメリット、つまり魅力はそれほど大きくないのではないかと感じた。

「3年契約」ということではあるが、名称が短期間で変わることのデメリットを想定し、「できれば契約を延長。5年程度の長期契約を」と期待している担当者の言葉もあった。

長く市民に親しまれる愛称こそ、市民の共有の財産である公共施設にふさわしい。さらに、その命名権を有するのは本来、財力のある特定企業より市民であるのが当然ではないだろうか。

以上のことから、公共施設へのネーミングライツの導入には慎重であるべきというのが、今回の行政視察を経た私見である。

(追記) 鎌倉の海水浴場のネーミングライツを年間1200万円10年契約、総額1億2千万円を投じて取得した菓子メーカーの豊島屋が「永年親しまれた名称は一切変えない。」として話題を呼んでいる。やや特殊な事例ではあるが、歴史に刻まれた「名称を変えない」ことが市民の支持を得たという意味で興味深い。

総務都市委員会視察 報告書

市民クラブ
林 哲 二

日程： 令和元年10月15日～16日

行先： 埼玉県飯能市
東京都狛江市、南池袋公園

目的： 飯能市→魅力ある都市回廊空間づくりのためのブラッシュアッププロジェクトについて
狛江市→えきまえ広場におけるネーミングライツの導入について

所感： まず、飯能市については、人口が泉大津市とあまり変わらないが、市域面積は約1.4倍とかなり大きな市である。しかし、市域面積の約7.5%は山林との事で、そのあたりの地形からも状況はかなり変わってくる。
メッツァ（フィンランド語で「森」）を最大限に上手く活用し、人気のキャラクター（ムーミン）と結びつけた戦略は素晴らしいと思った。

ムーミンライセンスを上手く活用し、宮沢湖の湖畔にひろがるムーミンバレーパーク、そしてメッツァビレッジは癒しと賑わいの空間として大変心地よい場所となっております。

時間の関係で、すべて回り切れなかったのは残念でしたが、一部でも雰囲気の良いところから、全体の良さは想像に難くありませんでした。また、少雨という条件でしたが、晴れておれば更に湖の美しさと木々の美しさが最高のロケーションを演出していたでしょう。

メッツァ事業のスキームについては少し難しい感じはしましたが、いずれにしても、行政も企業も市民も三方よしの大変すぐれたシステムになっておりその効果は今後おおいに期待が持てると感じました。

次に狛江市についてです。

こちらは、えきまえ広場にネーミングライツを導入して、メビウスえきまえ広場となりました。

狛江市は東京都の中で、裕福な交付税不交付団体がある中、交付税の交付団体と
のことです。しかし人口減少、少子高齢化時代における中で、人口が増えている
市でもあります。これは近隣の世田谷区から、川ひとつへだてて狛江に來たり
都心部への交通アクセスが良いことから、ベットタウンとして移り住む人が増
えているようです。

しかし、当然待機児童の問題等も増えているとの事です。

私達がメビウスえきまえ広場を見学した時は保育園の先生や、親子連れが遊び
に來る微笑ましい風景の人工芝がある広場でした

1つ驚いたのは、公園の方隅に携帯、スマホの充電設備が太陽光を利用してあつ
た事です。また、暑い夏用にミストの設備もありました。

先日のラグビーW杯、日本 VS. スコットランドでは、パブリックビューイングを
開催し、800人くらい集まったそうです。めちゃくちゃ盛り上がった事だと思
います。

賑わい創出がこのえきまえ広場の目的だという事なので、今後も大いに賑わつ
て欲しいと思いますし、この公園の使い方は、泉大津でも参考になるなと感じま
したので是非とも泉大津でも少しでも狛江市の賑わい創出のためのアイデアを
活かせるように思います。

最後に南池袋公園を視察しましたが、まさに都会の中のオアシスといった感じ
で、サラリーマンやOLさんがメインで、学生さんもちらほらという感じでくつ
ろいでいました。働き方改革がさげられる中、公園でゆっくりと読書したり、寝
そべったり、コーヒーを飲んだりしている人々を見ていると、心がゆったりとし
てきました。その意味で、綺麗な芝生でそこそこの広さがあり、カフェが併設し
ている公園は働きすぎ日本人に絶対的に必要な場所と強く感じました。

泉大津市民会館跡地には大いに期待しております。

総務都市委員会行政視察における所感

市民みらいネット 谷野 司

令和元年10月15日(水)

飯能市「魅力ある都市回廊空間づくりのためのブラッシュアッププロジェクトについて」

飯能市では、人口減少を克服し賑わいと活力のある飯能市を創造するといった基本理念から、メッツァとの連携および都市回廊空間の構築について学ばせていただきました。

平成25年11月フィンテックグローバル社がムーミン物語社を設立し、日本国内にムーミンを主題としたテーマパークを開設するライセンスを取得したとの発表を受け、トーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園を保有し、豊かな自然環境でムーミン谷を再現することがふさわしい、また、都心よりアクセスが1時間と優れていることから誘致活動を展開した結果、平成27年6月30日、飯能市にメッツァが開設されることに決定した。(メッツァとはフィンランド語で森を意味する)

メッツァでは、北欧のライフスタイルを体験できる「メッツァビレッジ」と、ムーミンの物語を主題とした「ムーミンバレーパーク」の2つのゾーンから構成されている。

飯能市における重点戦略としては、メッツァと飯能河原・天覧山周辺、トーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園との連携で、回遊性の向上を図り、市域全体の人の流れを作ること、地域活性化に向けた取組みを行なっていると説明をいただきました。

メッツァの運営スキームは、フィンテック社が資金を調達し、地元建設事業者JV(60社)に57億円で工事発注を行い、ムーミンバレーパークは、フィンテック社から分離させ、地域SPC(飯能地域資源利用活用合同会社)として土地・建物を地域資産として運用する。また、地域SPCは地元金融機関、地元企業、飯能市からの出資にて運営が行われているとの説明をいただき大変参考となりました。

キャラクターのライセンス活用では、ふるさと納税返礼品の一例としてムーミングッズを提供しており、寄附金額においても年々増加傾向であり、平成30年度においては、2億3千万円の寄附申込があった。また、ふるさと納税の寄付金収入でムーミン基金を設立し、メッツァ周辺の道路整備など周辺対策に充てているとの説明をいただきました。

メッツァによる効果については、メッツァビレッジテナントへの地元業社出店による地元製品の取り扱いをはじめ、メッツァ内外を問わず、市内店舗との連携イベントを実施している。また、市民の優先雇用、市民優待も実施しているとの事でした。

マスコミへの露出については、昨年8月から118回もTVに取り上げられていることもあり、プロモーション効果も非常に大きいと説明をいただいた。

当市の課題であった人口減少は、メッツァ開業以来、鈍化傾向にありH31.1.1から10.1の間は、減少が殆ど無く、約79,600人で推移しているとの事で課題解決が図られていることがうかがえた。

来場の中には、アジア圏のインバウンド客が多く、メッツァでの経済効果を波及させる目的で、「がんばる商店街等応援補助金」を創設し、商店街におけるキャッシュレス決済対応、多言語対応ができるよう施策を展開しているとの説明であった。

飯能市の取組を参考とし、本市において、ロケーションや立地条件に違いはあるが、市民会館跡地における公園(ヘルシーパーク)整備についても、民間事業者・地域の市民や企業・役所が共創し、公民連携で検討し、推進・整備することや、仕掛け仕組み作りが重要であると感じました。

令和元年10月16日（木）

狛江市「えきまえ広場におけるネーミングライツの導入」

近隣住民交え検討委員会を実施し、平成28年3月に策定された狛江駅前三角地整備基本計画において「にぎわいを創出する広場」として位置付けし、イベントなど多様な用途で使える広場として、平成30年度に「えきまえ広場」と名称を付け、新たに整備開設された公園である。

また、市の財源確保を図ることを目的に、えきまえ広場に係るネーミングライツのスポンサーを、平成29年9月15日から10月31日まで募集実施。

応募の中から、狛江市えきまえ広場ネーミングライツスポンサー選定審査会にて、市内事業者である株式会社メビウスをスポンサーとして決定し、「メビウス∞えきまえ広場」を愛称として決定したとの事であった。

公募にあたっては当初応募が無く、契約金額の相場も無い中、担当部署にて地元企業への営業活動を実施したとの苦労話も聞かせていただきました。

その結果もあり、2社応募されたとの説明がありました。契約期間は平成30年4月1日から令和2年3月31日の3年間であり、契約金額は65万/年 計195万円での契約が締結できたとの事でした。

公園の維持管理については197万円/年であり、ネーミングライツでの収入は維持管理費用に充当されており、その他イベントでの広場貸し出し収入を含めると、市の管理費持ち出し分は、約110万/年となっている。理想としては、維持管理がまかなえるだけの契約金額があればとの説明であった。また、デメリットについては、契約ごとに広場の名称変更が生じるといった説明もあった。

これらをふまえ、本市近隣においてもネーミングライツを展開している自治体も存在している。今後、泉大津を取り巻く現状や実情を勘案しながらネーミングライツに関しても取組を検討する必要があると感じました。

令和元年10月16日（木） 13:20～13:40

南池袋公園視察（公園のみ視察）

- ・平日にもかかわらず、大勢の方が公園に集まっていたのが印象的であった。
- ・テナント関係では地上は、カフェレストラン、地下には東京電力パワーグリッドの変電所、東京メトロがあり、歳入歳出のバランスでは黒字となっている状況である。

（写真掲載）



総務都市委員会行政視察

総務都市委員会 委員 村田雅利

令和元年10月15日(水)

埼玉県飯能市「魅力ある都市回廊空間づくりのためのブラッシュアッププロジェクト及びメッツアビレッジについて」

飯能市において、基本理念、人口減少を克服し、賑わいと活力ある飯能市を創造する。飯能市から始まる日本の創生を学びました。地方創生の考え方のベースは、民間の繁栄なくして市の繁栄なし。民間資本の誘導による地域経済の循環、活性化、民間事業による賑わい創出である。

平成25年11月にフィンテックグローバル社がムーミン物語社を設立し、日本国内にムーミンを主題としたテーマパークを開設するライセンスを取得と発表し、トーベヤンソンあけぼの子どもの森公園を有していること、豊かな自然環境を有し、ムーミン谷を再現するのにふさわしいこと。池袋から最短40分「都心から1時間」とアクセスが優れていることで誘致活動を始め平成27年6月30日飯能市にメッツア開設決定、(発表)されることと決定しました。

メッツア(森)とは、メッツアビレッジ(MV)とムーミンバレーパーク(MVP)から構成されているとの説明を受けました。

中身については、メッツアビレッジはフィンテック社が資金を調達し、地元建設事業者へ工事発注、発注金額57億円でムーミンバレーパークはフィンテック社から分離、地域SPCとして土地、建物を資産として運用及び地域SPCは、地元金融機関、地元企業、飯能市からの出資で運用しているとの説明を受けました。

キャラクターライセンスの活用では、ふるさと納税返礼品として、ムーミングッズを提供し、寄付金額についても平成27年度は、46件3971000円であったが平成29年度は、7164件161020849円に増加し、平成30年度は230000000円の寄付申込みがありこの先も年々増加傾向にあるとうかがえた。

地方創生、地域活性化の成果は社会動態の変化で社会動態のプラス化、人口の変化では減少の鈍化、平成31年1月1日から令和元年10月1日は人口減少なしとなっている。主本市でも飯能市の取組を参考とし市民会館跡地の活用であるヘルシーパーク整備についても一度しっかりと議論をし民間事業者誘致や本市民の意見を聞き、公民連携で検討していかねばならない事が最重要課題であると思いました。

令和元年10月16日(木)

東京都狛江市「えきまえ広場におけるネーミングライツの導入について」

市の財源確保を図るため、平成30年度に「にぎわいを創出する広場」として新たな開設を迎えるえきまえ広場に係るネーミングライツのスポンサーについて平成29年9月15日から10月31日まで募集を行った。

応募の中から狛江市えきまえ広場ネーミングライツスポンサー選定審査会により市内事業者である株式会社メビウスをスポンサーと決定。

「メビウスえきまえ広場」をえきまえ広場の愛称として決定した。

公募については応募数が2社から決定したと説明がありました。契約期間は3年間で契約金額は年/65万円で計195万円での契約である。

本市においてもこれらを踏まえネーミングライツ導入に関する取組についてはもうすこ

し議論をし検討することが必要である。

令和元年10月16日(木)

南池袋公園視察

運営理念は、「サードプレイス」。現在の都市社会において、住宅(ファーストプレイス)と職場や学校(セカンドプレイス)に次ぐ居心地のよい第三の場所を指す。

全体的には平日の昼間でしたが人がたくさん来ており、にぎわっていた印象であります。店舗等施設では飲食店が入る施設、管理室、トイレなどがあり他に備蓄倉庫、災害時には帰宅困難者対策を担う機能を持つ公園でありました。